

☆「保育実践力育成プログラム（BP）—保育の学び直しプログラム—」のご案内

本プログラムは、保育の現場で働く人材の確保のために、しばらく職場を離れていた幼稚園教諭や保育士が職場復帰を希望する際や、資格を持ちながらも働いていない保育士等に対して、最近の保育の状況・動向等を現場実習も含めて学び直すことができるようなプログラムを提供するものです。

この講座の特徴は、自信を持って職場復帰することができるように新しい保育制度や家庭支援等の理論、アレルギーや危機管理等の保育配慮する事項、保育実践等の内容、および現場実習で編成しています。また、本プログラムの内容は、現職の保育士が「質の高い保育」を実施するために重要な事項も含まれており、現職研修としても活用できるように計画的に構成しています。

「保育は人の手によって行われる営み」であり、子どもの育ちに大きな影響をあたえるのは「保育者」です。本講座の受講者が、より高度な専門的知識や技術を修得し、今後保育のリーダーとして活躍できる力を育成することを目指しています。

<プログラムの概要>

- 受講要件：①幼稚園教諭免許または保育士資格を有すること。
②全期間受講できること。
- 受講期間：平成30年4月～平成31年3月（1年間）
- 開講科目：保育と研修（集中講義）、保育実践（実習）、
保育学研究演習（演習）
（BP）修了証書を発行いたします。

※プログラムの詳細に関する問い合わせ先： 聖和短期大学事務局（TEL0798-54-6504）



☆認定ベビーシッター資格登録更新手続きのお知らせ

2011年度（2012年3月）迄の卒業生で認定ベビーシッター資格を取得された方は、登録更新を迎えましたので、お手続きをお願いいたします。

なお、資格更新期限は5年間となっておりますので、お手許の登録証（カード）を確認のうえ、更新の該当年度にはお手続きいただきますようお願いいたします。

※手続き窓口は右記参照⇒

【手続き窓口】

公益社団法人 全国保育サービス協会
 (旧称：社団法人 全国ベビーシッター協会)
 〒160-0017 東京都新宿区左門町6-17 YSKビル7F
 TEL03-5363-7455 E-mail info@acsa.jp
 ※手続きの詳細はこちらのURLへ
<http://www.acsa.jp/htm/infomation/index.htm>

☆寄付金のお願い ～ 卒業生の皆さまから、学生支援のために ～

本学では、学生生活支援および教育研究環境の充実のために、寄付金を募集しております。寄付金のお申し込み及びお問い合わせについては、下記までご連絡をお願いいたします。なお、寄付金のお申し込みの際には、「聖和短期大学のために」と申し添えください。

（※ご協力いただいた寄付金は個人、法人ともに税制上の減免措置を受けることができます。）

【寄付金に関する申込・問い合わせ窓口】 聖和短期大学 事務局（〒662-0827 西宮市岡田山7-54 TEL：0798-54-6504）

～2018年度の主なスケジュール～
 (2018年4月～2019年3月)

入学式	2018年	4月2日
夏のオープンキャンパス	6月10日、8月4日、8月12日、9月30日	
ホームカミングデー (関西学院大学西宮聖和キャンパス大学祭日)		11月10日
短期大学クリスマス礼拝		12月13日
聖和キャンパスクリスマス礼拝		12月19日
研修会(卒後支援)	2019年	2月20日
卒業感謝礼拝		3月15日
卒業式		3月16日
春のオープンキャンパス		3月21日

※上記日程は予定です。変更等がある場合は、聖和短期大学ホームページにてお知らせしますので、ご確認ください。

連絡先 聖和短期大学事務局
 住 所 〒662-0827 西宮市岡田山7-54
 電 話 0798-54-6504
 E-mail tandai-jimu@kwansei.ac.jp
 URL http://www.kwansei.ac.jp/seiwa_j_college/

2018年3月1日発行
 学校法人関西学院 聖和短期大学
 学長 千葉 武夫

卒業生の皆さまには、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。さて、今年も聖和短期大学通信を、お手元にお届けいたします。聖和キャンパスの“今”の様子や先生方からの近況報告を掲載しました。学生時代のことや聖和のキャンパスを思い出しながらご一読ください。

新校舎「2号館」始動

2017年4月にオープンした2号館は、学生たちの新しい拠点として始動しています。キャンパスの中心に位置していることもあり、多くの学生が授業の合間に利用する姿が見られます。特に1階のラーニングコモンズ「リブラ」はグループ学習に最適なスペースで、予約なしで使用できるため、レポートや課題の作成、時には休憩に利用しています。

また、中央のスペースでは定期的にActivityを開催しており、教職員が授業とは異なるテーマでプレゼンテーションやワークショップを行っています。

2階には、最大28名が同時にピアノレッスンを受けられる「ミュージックラボ」があり、音楽関係の授業では、これまでの少人数レッスンに加え、グループレッスンの新たな授業展開を実施しています。

2号館は土曜日18時半*まで開いていますので、卒業生の皆さまもぜひ一度足をお運びいただき、新しい聖和キャンパスを見に来てください。

*授業期間外や一部の土曜日は開室時間の変更や休館になることもあります。



新任教員のご紹介

2017年4月から、新しく着任された先生を紹介します。



馬場 耕一郎 (Baba Koichiro)

- ①職位 准教授
- ②専門 保育原理
- ③趣味 ロードバイク

④抱負・メッセージ

卒業生の皆さま、はじめまして。2017年4月に着任し、主に「保育原理」や「保育実習」等を担当しています。聖和大学を卒業後は、幼稚園・保育園で勤務しました。その後、行政に入り制度改革や保育所保育指針の改定に携わりました。保育現場で得た経験や行政職を通して得た情報をわかりやすく授業を通して伝えていきます。学生の夢の実現に向けてよりよい教育に努めます。

2017年度 聖和短期大学研修会



2018年2月19日に、聖和短期大学研修会を開催しました。(内容は下表) 約100名の来場者があり、中川先生、長谷川先生それぞれの視点で「子どもの育ちを支えるために」をテーマに講義していただきました。2018年度も2月に開催予定です。詳細が決まり次第、本学ホームページでご案内させていただきますので、ぜひお越しください。

講義1	中川香子氏(本学教授) 「造形表現にスイッチオンー発見と工夫で創造力が育つー」
講義2	長谷川義史氏(絵本作家) 「ぼくの絵本のここだけのはなし」
見学会	関西学院幼稚園・聖和乳幼児保育センター・ 関西学院子どもセンター「おもちゃとえほんのへや」見学

高田研究室より ～聖和の森に響く新しき歌～

陽の光が、日ごとに増し輝く季節となりましたが、卒業生の皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。

最近、学生たちからは時々こう呼ばれる事があります“じーじ!”、また実習先の幼稚園や保育所などへ伺った際には子どもたちから“じ～ちゃんが来た!”。

初めてそう呼ばれた時には、「そんなはずはない!」などと内心、ショックを隠し切れない中、改めて鏡を見ると髪も白く、わが身の風貌に納得せざるを得なかった思いでした。

聖和で音楽の教員として歩み始め、いつしか36年もの月日が経ち、振り返れば、夢のように過ぎ、しかし多くの時間が流れる中で、学科や学部の増設や縮小、阪神大震災、関西学院との合併など長年の間には、いくつもの大きな出来事の中を過ごしてきました。建物は昔の木造校舎から、震災後、そして関西学院との合併後は随分と立派な建物へと変わり、以前の姿を残し、木造校舎として現在も使われているのはダッドレーチャペル(旧4号館)のみとなりましたが、毎週の礼拝などで、その歴史ある建物に足を踏み入れ、床の“きしむ音”を聞く度に、勤め始めた頃の風景や学生、教職員の方々の事を思い出します。

ところで専任教員には各人の研究室が備えられていますが、私には現在の6号館のピアノレッスン室兼研究室ともう1か所、「第2の研究室」だと思っている場所があります。

それはチャペルです。礼拝のオルガン演奏に備え、放課後に練習をする事が多々ありますが、電話やメール、そして学生の突然?の来訪もなく、ひたすら練習に集中できる場所であり、“隠れ研究室”と言っても良いかもしれません。

キリスト教主義学校にとって、チャペルは何よりも大切な場所・時間だと思いますが、卒業生の皆さまにとって、チャペルはどんな場所であったでしょうか。

数年前の5月頃でしたが、3月に巣立ったばかりの卒業生たち数名が突然、研究室を訪ねて来て、ひとしきり話した後、一人が急にピアノに向かい「学歌」と共に、「こどもさんびか」を弾きだし、共に歌い、大合唱となりました。学生時代には、義務的にしか聴いていなかったかも知れない「さんびか」が、実はこころの中に染み透っていたのかも知れません。



「学歌」や卒業アルバムの卒業生写真欄には『種は蒔かれた』とあります。卒業生の皆さまが、各々の場で、様々な働きをされておられることが、私にとって何よりの喜びです。

時には青春時代を思い出し、その歴史を見つめてきた聖和の森の中へと帰って来てみませんか。共に「学歌」や「さんびか」を歌いたく思います。日々「新しき歌」を歌い続けていくためにも。

もう少しの間だけ、私は聖和の森の中で過ごしたく思っています。

教授 高田 正久



2年生による「聖和大運動会」開催

定期試験最終日の1月26日(金)、聖和キャンパスの体育館アリーナで2年生の学生による運動会が開催されました。この運動会は学生による自主的なイベントで、アドバイザークラスのリーダーが中心となって企画・準備・運営まで全て行い、卒業式前の最後のイベントを盛り上げていました。

約120名の学生が参加し、イ・ロ・ハ・ニ組に分かれクラス対抗戦形式で「障害物リレー」「ドッチボール」「5人6脚」をみんな元気いっぱい取り組んでいました。(力が入りすぎて、転んだり、ぶつかったりしながら…)この日、外は雪が降っていたのですが、体育館はみんなの熱気に包まれ、短大生最後のイベントを「楽しかった」「最高の思い出ができた」と満喫していました。



この度、2018年3月31日付で、橋 実千代 准教授がご退職されることになりました。橋先生は長きにわたり聖和の発展にご尽力されてきました。様々な聖和との思い出や感謝を綴ったメッセージを頂きましたので、ここにご紹介いたします。

退職にあたって

橋 実千代

今年の冬は寒さが厳しく、聖和の森をはじめキャンパスは一面銀世界となり、降園する園児たちが楽しそうに森の中に駆け込んでいく姿を見て、幼稚園に勤務していた頃を懐かしく思い返しました。あの頃はもっと寒さが厳しく、水を様々な容器に張り氷を作ったり、雪投げをしたり、大学のグラウンドに靴跡をつけたり、雪だるまを作ったりと、雪の日はバラエティーに富んだ戸外遊びの日でした。聖和の自然は魅力的で、薄紅色の桜から始まり、若葉、青葉、赤や黄色に染まりかさかさ音がする落ち葉、春まで小さな花をつける寒桜…と、研究室の窓から四季の移り変わりを楽しみ、疲れた時には慰められました。

私は、ダッドレーチャペルの2階にあった聖和第二幼稚園(現関西学院幼稚園)に4歳の春から通いました。園からの帰り道、岡田山の抜け道をあちらこちらと歩き回ったことはスリルに満ちた楽しい出来事として思い出に残っています。ピアノをほとんど弾くことができず、美術、体育が苦手な私でしたが、縁があって聖和女子大学の8回生として入学し、女子校の雰囲気戸惑いながらも、ここで多くの敬愛する先生方や友人に出会いました。先生方が古いものを大切に護りながらも、積極的に新しい考え方を取り入れられ、次の時代の保育者を養成される姿を見て、学び、育てられました。また、穏やかで途切れることのない信頼関係を友人たちと築くことができ、卒業時に学友たちと3年毎に同窓会をすることを決め、43年経った今でもそのことは守られています。

卒業して最初、附属の北聖和幼稚園(現関西学院幼稚園)に勤務しました。171号線沿いにあった園舎から大学の敷地に移転したばかりで、荷ほどきをしながらの4歳児クラス担任として保育を行いました。その年の秋の園児募集には、多くの希望者が集まり、抽選で入園児を選ぶ事態となる子どもの多い時代でした。翌年、南北両幼稚園は、4歳児クラスを1学級増やし、午後に保育を行うこととなり、子どもたちが11時頃に登園してお弁当を食べてからの自由活動という保育を私のクラスも1学期間行いました。園バス運行も、二部保育も、貴重な経験でしたし、地域や保護者のニーズに応じた方策を考えられ実施されることを学びました。保育に関しては毎週保育案を立て、月、週のねらいから、1曲の歌、1冊の絵本も吟味し検討して各学年に適するものを選び、丁寧に保育案を作成していましたが、その考え方は次の職場でも生かすことができ、その時のノートは今も大切に手元にあります。

4年目から30年間にわたり、学内の障害児教室や児童相談研究所で『療育』の分野の仕事に携わりました。障害がある子どもたちにも保育への参加が大切だと考えられ始めた頃で、保育所では受け入れが本格化していました。大学ではあえて障害がある子どもの小集団保育や1対1の個別療育を行うことが企画・検討されましたが、一人一人のニーズに合った保育の提供を考えての構想であったと思います。当事者の私たちは手探り状態で、幼稚園時代の保育を基盤に保育案を作成し、子どもや保護者にとって心地の良い居場所作りにつとめました。この職場で、子どもたち、保護者、同僚、特別支援教育に携わる先生方等々、多くの方々に出会い、その中で支援のありかたについて学び実践してきました。

平成4年、聖和短期大学専任講師となり、実習等の授業を担当する機会を与えられ、児童相談研究所兼務という立場になりました。授業を持つことに不安を感じ、恩師の研究室を訪ね、大学教員の心構えをお尋ねしたところ、「よりよき保育者を育てること」と言われ、その一言を常に肝に命じて学生と関わってきました。関西学院との合併を機に研究室をいただき新鮮な気持ちで授業に取り組んでいましたが、保育者養成の仕事に本格的に携われることにその責務と楽しみを新たに感じる毎日となりました。その後、「障害児保育」の授業を担当することになった時、今までの経験を学生に伝える機会が与えられたことに緊張と喜びを感じました。

今、庭の木々の移り変わりに、子どもたち、保護者の方々や学生たちと過ごしたそれぞれの季節の思い出の風景が重なってきます。自信を持って保育をしている卒業生の姿に喜びを感じ、落ち込んでいる学生を励まし、送り出してほっとする、そんな毎日をこの10年繰り返してきて、学生や卒業生、私自身に対しても、どんな場においても、幼き子どもたち、弱き人たちの傍にいて、その身体と心を守る人でいてほしい、ありたいと強く願います。退職に際し、聖和で、これらの仕事に携わることができて、本当に幸せだったと感じています。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

